

まえがき

なんとなく、メロディーが書けて、伴奏（コード）もつけることができる。でも、アーティストがギターやピアノで弾き語っているのを聴くと、何かが自分の作品と違う。そんな思いをしたことはありませんか？

本テキストは「Composer Starter Guide・Primary Sheets-a」で基本的なノウハウを既習された方、もしくは同程度の知識をお持ちの、具体的には上記の様に簡単なメロディーとコードは書けるんだけど、何かイマイチ思った通りにならないといったような方には、ピッタリの内容になりますので、きっとお役立ていただける事でしょう。

「Composer Starter Guide・Primary Sheets-a」は作曲、初心者または知識0の未経験者からの対応を考慮した「作曲」を知っていただく程度の内容となっていました。今回お届けする「Composer Starter Guide・Primary Sheets-b」は、最後まで習読、及び実践課題をこなしていくと、自然と現状の商業音楽（特に歌モノ）となんら遜色がない音、むしろより仕上がりのいいサウンドが書けるようになっていることでしょう。

なので、内容としては中級者向けとなっておりますが、例えば、音楽の「仕上がり」に関連性の深い「和声」（本テキストではVoicing）と呼ばれるハーモニーのつながりに関しては、独創性と自由度の「枷」にならない程度の最低限かつ、実践的な重要事項のみ厳選してまとめられ、無理なく「和声感」が身につくよう考慮されています。

また、調性においても、感覚的のみならず、理論的にも様々なKeyを使いこなすことができるようになるので、メロディーに付けるハーモニーの選択肢が広がり、音楽がより彩り豊かになることでしょう。

…等々、今まで有りそうで無かった、音楽を「本物」っぽく仕上げるヒントが詰まったテキストとなっております。

皆様に今まで以上の、より味わい深い音楽ライフへのドアを開けるKeyとしてご活用いただけたら幸いです。そしてさらなる深い作曲の楽しさと、一人でも多くの方に、何より今まで書けなかったであろう美しい「響き」に巡り合えることを願って。

もくじ

01	コードネーム① ＜コードネーム＞	1
02	IIIのコード ＜IIIのコードの活用＞	3
03	関係調と遠隔調 ＜関係調の関係調？＞	5
04	II→VモーションとD→Tモーション	7
05	コードワーク③ ＜強進行＞	8
06	ボイスインターバル ＜Voiと協和・不協和音程＞	10
07	コードネーム② ＜aug・dim・sus4＞	12
08	ヴォイシング① ＜ヴォイシング＞	14
09	ヴォイシング② ＜縦から横or横から縦？＞	16
10	ヴォイシング状の禁則 ＜禁則って言うけど…＞	18
11	ヴォイシング③ ＜不協和音の解決＞	20
12	VIIのコード① ＜禁則の例外措置・Basの定型＞	22

04 II→VモーショントD→Tモーショント

譜例1-a

mb4_1

C Am7 Dm7 G C

C: I VI₇ II₇ V I

譜例1-b

mb4_2

C Am7 D7 G C

C: I VI₇ V I

G: II₇ V₇ I

S D T

ルートの動きが全て
主音→下屬音

譜例10と11の違いは3小節目冒頭のコードがDm7→D7なってます。これは、後続のGに繋がるのであれば、このGをトニック（I）に見立てドミナントに当たるD(7)に差し替えてみた、つまり3小節目をキーがCのツーファイブモーショントから、キーがGのドミナントモーショントに移行したことになります。

譜例1-c

mb4_3

E7/B Am Am7/G D/F#

a: V₇ I

D T

譜例12は11の2小節目の手前にAmのドミナントに当たるE7を入れ転回形を使って全体的に滑らかにコードをつないだ例（IIIのコードの差し替え、Mlec-b5で後述）になります。II→VとD→Tの様にルートを主音としてそのキーの下屬音への進行（強進行と言います。）は結びつきが強いので、コードの間に挟んだり他のキーのモーショントに差し替えたりしてよく用いられます。

